

黄谷水大書卷

六九

編編

3023
2





一雄齋國輝画

爲永春水作

黄金水大盡盃

一雄齋國光画

為永春水作

黄金水大書盃

五編下

卜題曲多兩國

五編上





春水作
國貞画

全盛

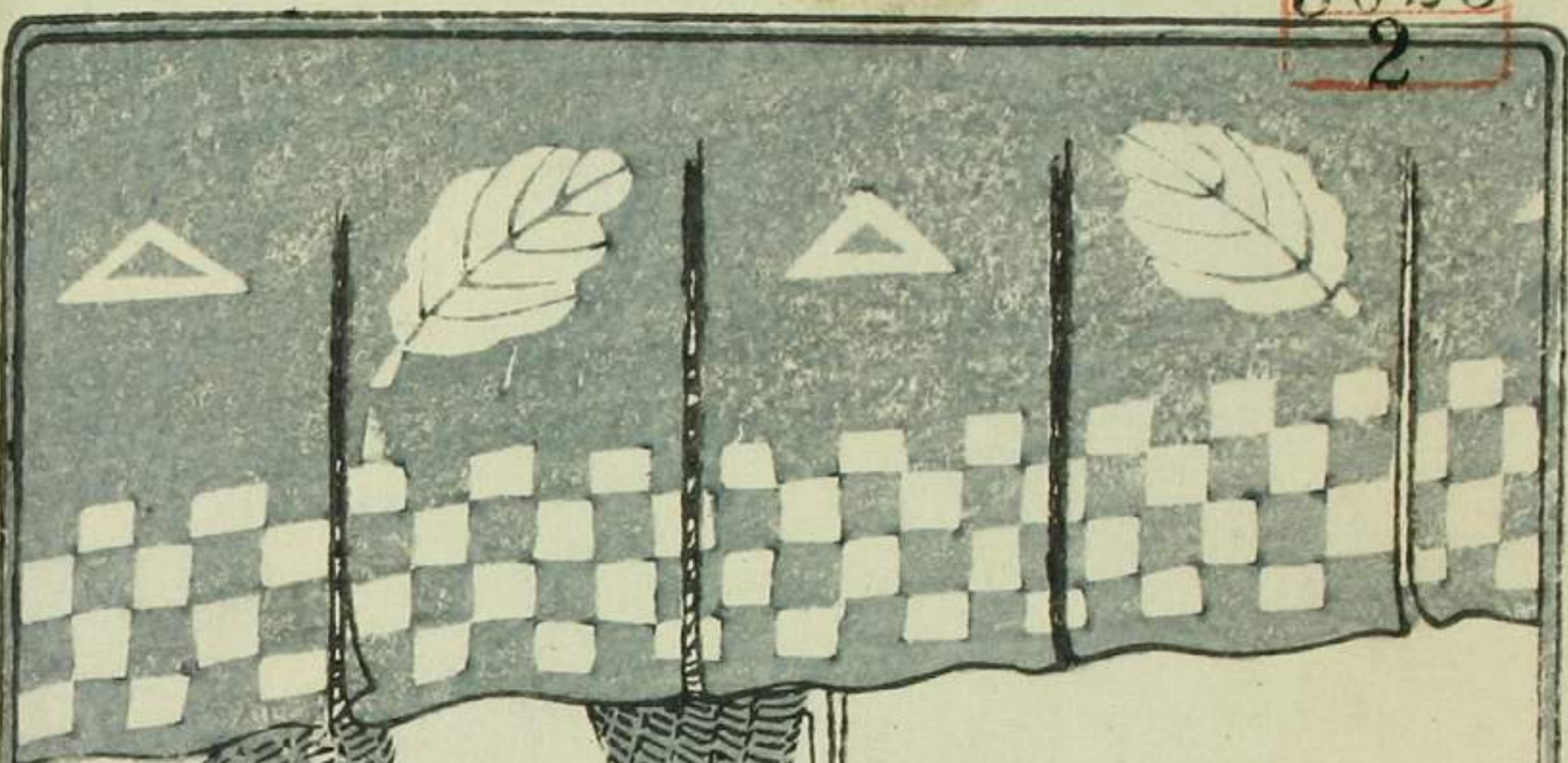
黄金永大盡盃
編六

下

外題曲多國貞

上

へ13
3023
2



養金水

大空杯

六篇抄

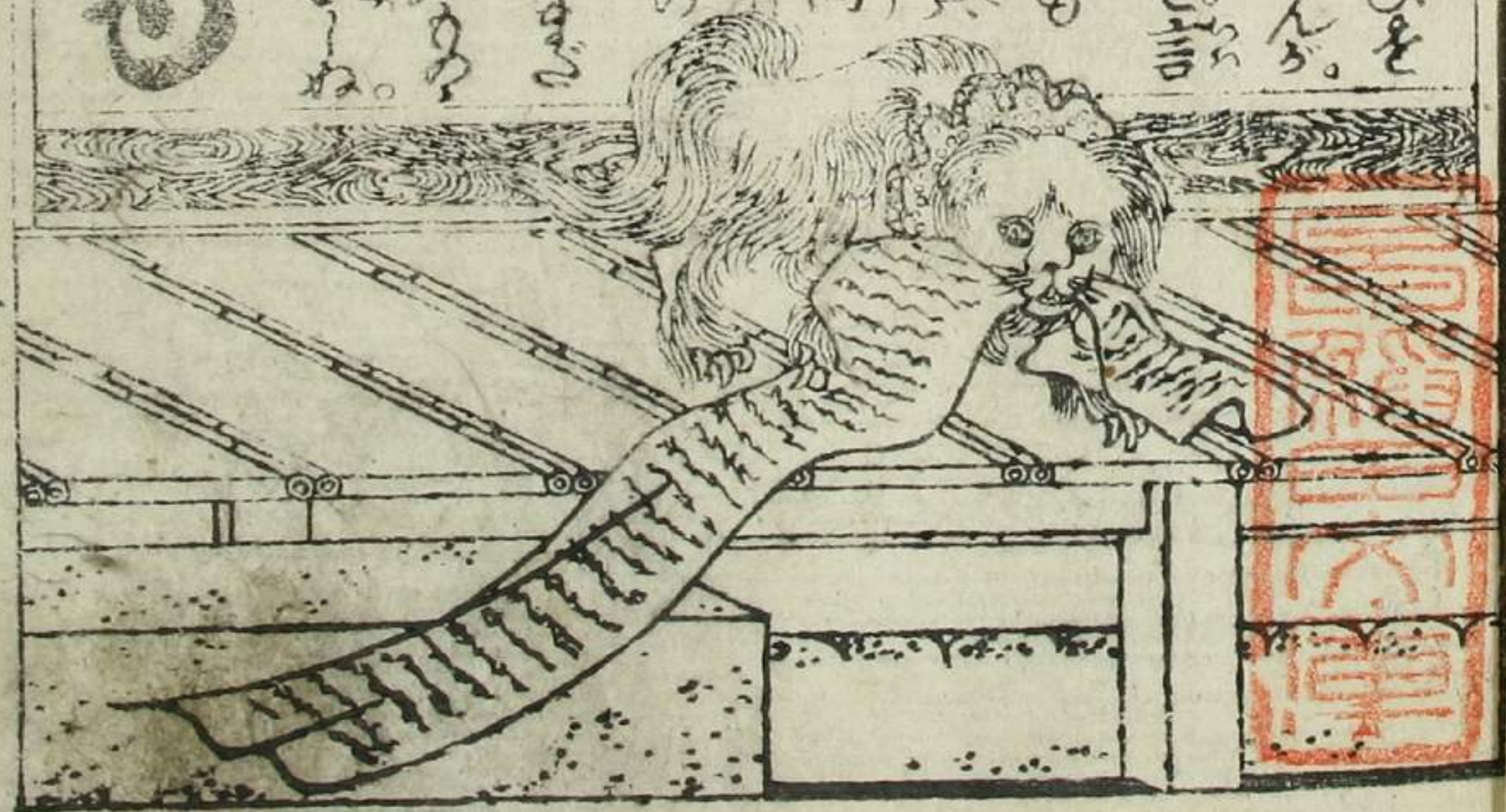
甘泉堂

為永春水記
一考為國名

水仙子

出格予窓ふ冠木門四時前の藥取が玄關で欠びを
 ぞるやうなれば匠者もとろく流行口板元の小僧さん
 居催促の居眠ぬ為倦てせむと云ふまゝと云
 是るやうにせむと云ふれば作者もあつて物なれども
 開先哲のうへふて咱們と云ふあつては其負
 更加で此年紀人並ふ策子に綴きと筆頭お趣向

と盛生の術を知らねば多ふ藥取より者官の
 先欠びを催しぬ居眠為倦く遠本の海の内も
 己らぬ歌と云ふれば懲らぬ復算四編の稿を脱しぬ
 乙卯孟春 為永春水記



一



阿妙



由良家の忠臣
笹園内記
辰行

黄金小四郎



右に出せし口連二員は五編より
六編より起るまじき道平守を

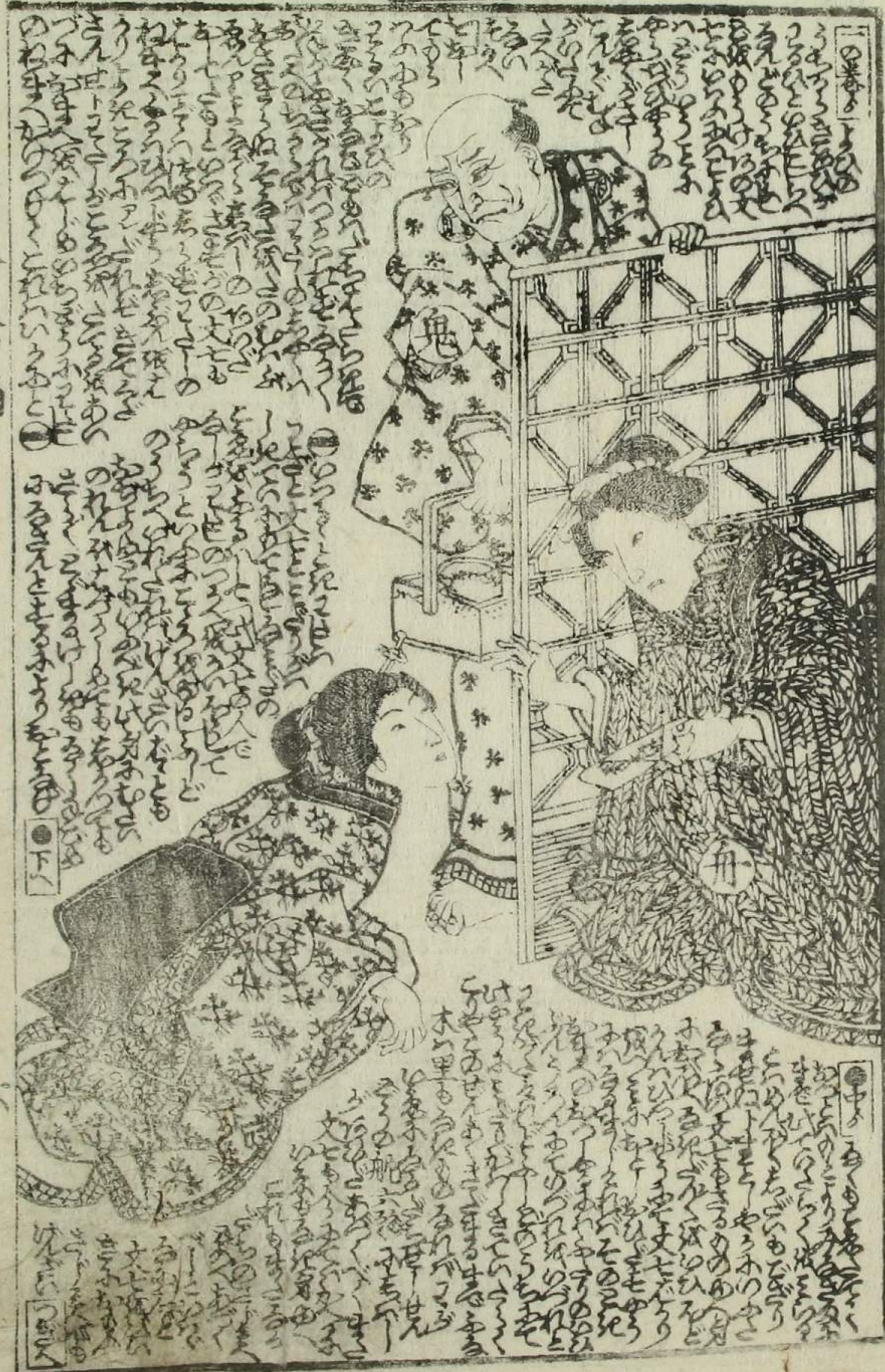
船六
阿奸



岩代の舎弟
深沼の
一介
倍



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration.

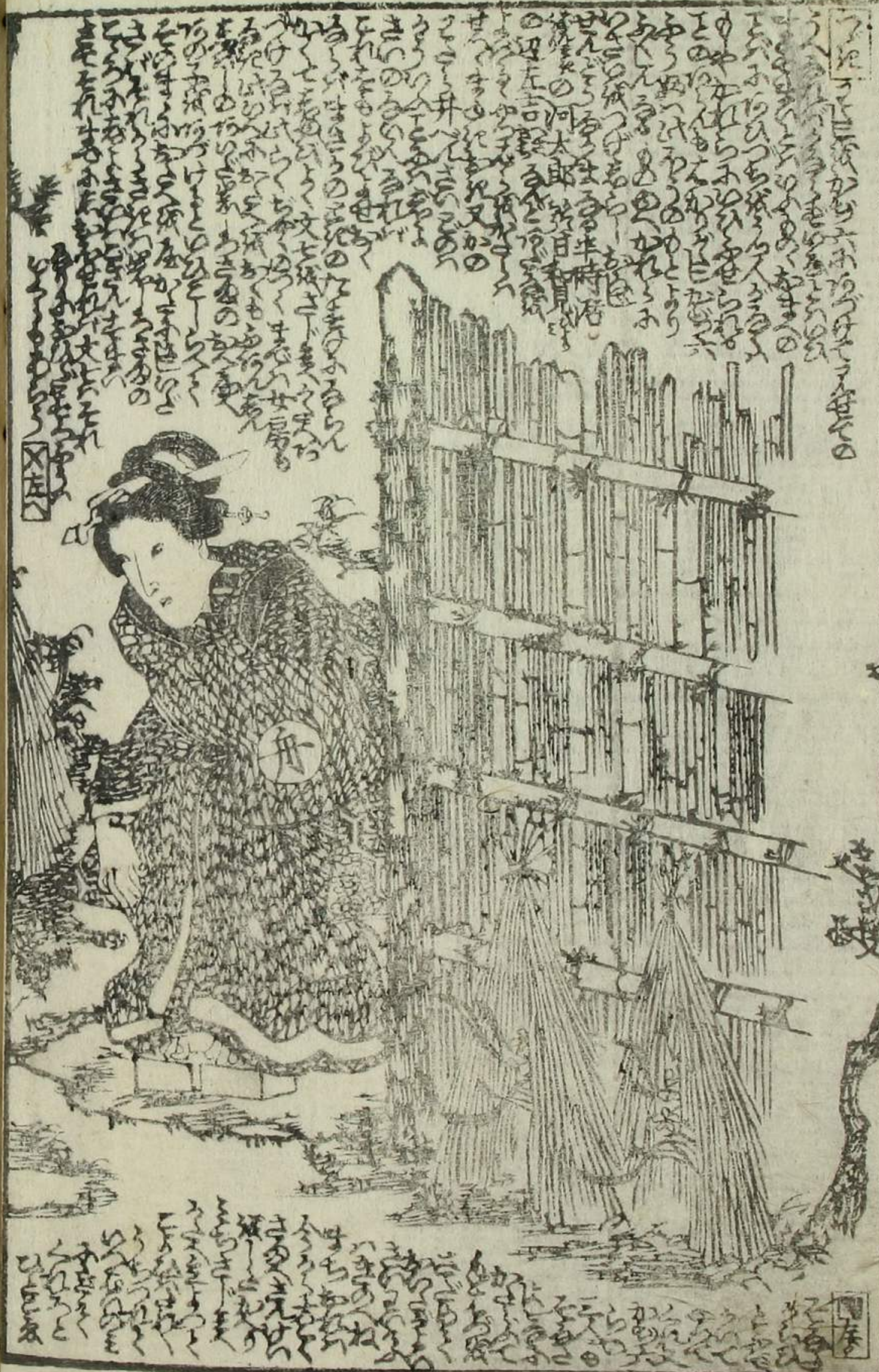


Vertical columns of handwritten Japanese text at the top left of the right page.

Large vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, surrounding the illustration.



黄金水四紙



[Vertical text columns surrounding the illustration on the right page.]



[Vertical text columns surrounding the illustration on the left page.]

高倉の口

Shōwa...
...
...

...
...
...

...
...
...

[Extensive vertical text columns at the bottom of the left page.]



黄金の四角



Vertical text columns at the top of the right page, likely serving as a title or introductory text for the scene below.



Vertical text columns at the bottom of the right page, providing commentary or dialogue for the scene.

Vertical text columns at the top of the left page, likely serving as a title or introductory text for the scene below.



Vertical text columns at the bottom of the left page, providing commentary or dialogue for the scene.



正の...
 此の...
 上...
 下...
 左...
 右...

六日編

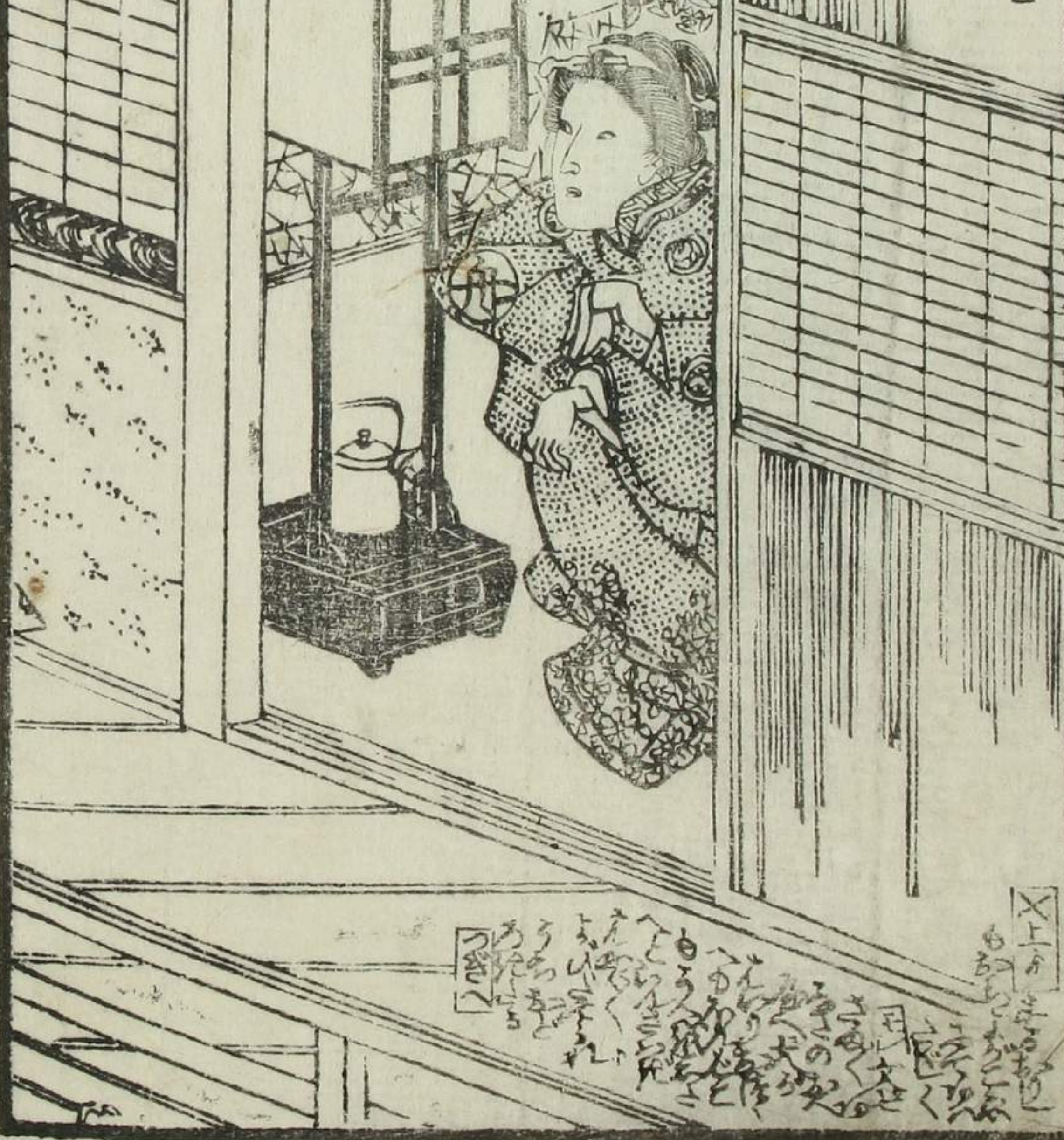


春水佐
 一推
 國光

浄書
 青洲
 此の...
 上...
 下...
 左...
 右...

青島之四

つれづれと... 花の... 木...



上の... 下...

つれづれと... 花の... 木...

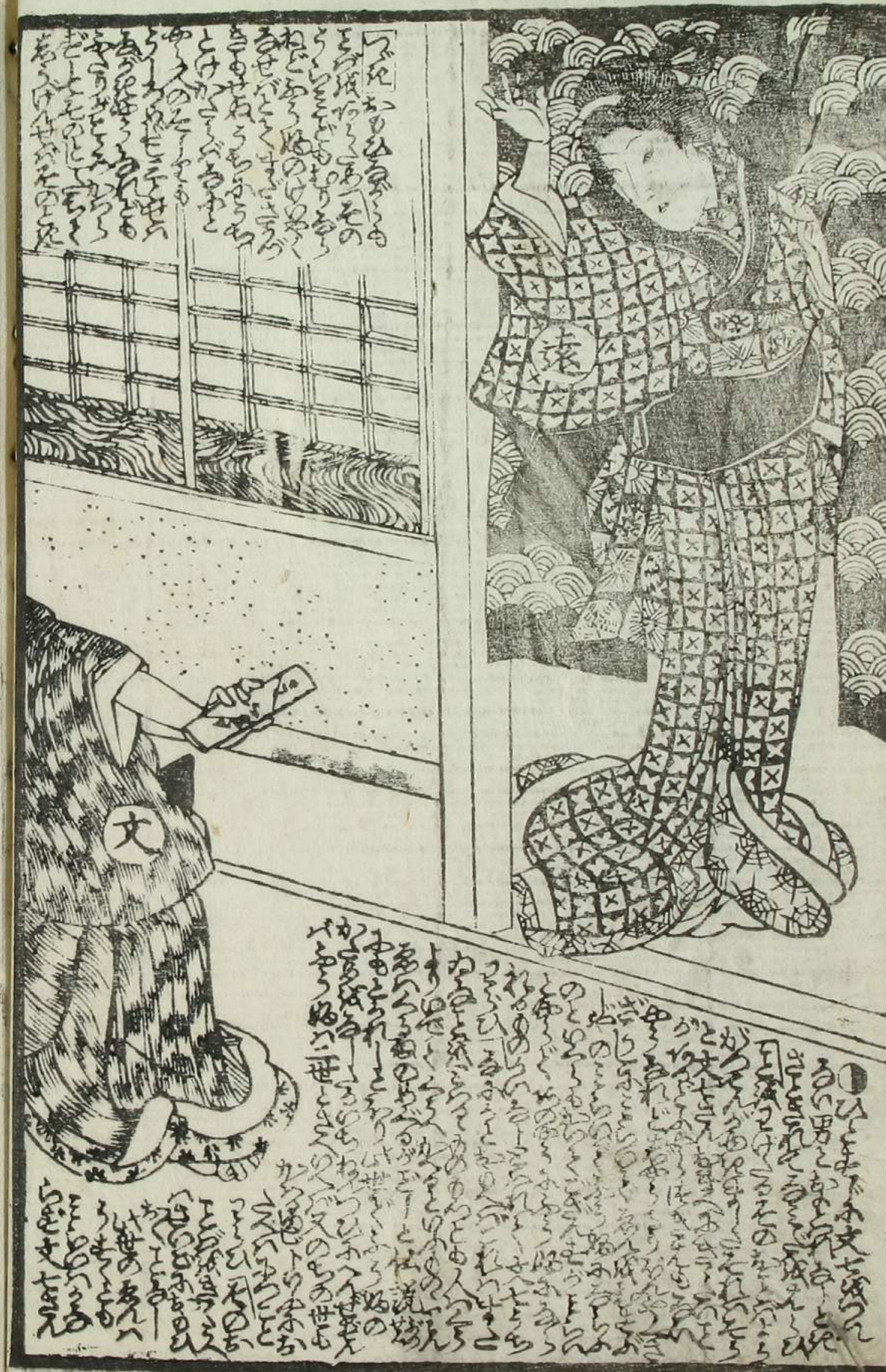


上の... 下...



かきつばたの
花のうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる

あつちのうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる

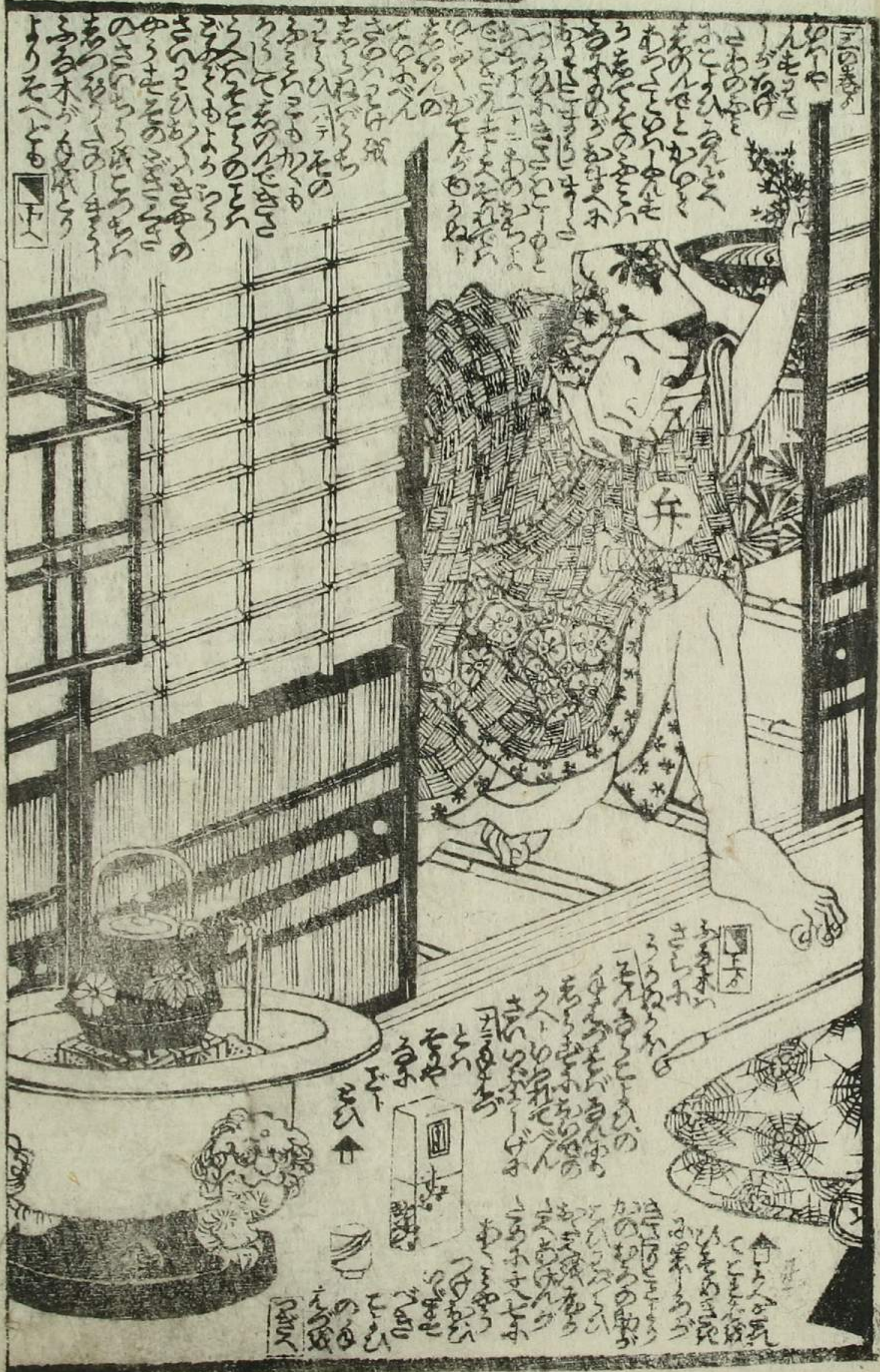


かきつばたの
花のうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる

あつちのうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる
おのゝづか
のうらみ
をよめる

黄金の
四角





古今和歌集



古今和歌集





夫ハ、此ノ時ニ至リテ、
 其ノ心ヲ、大ニ驚カセ、
 何レノ事ナリト、問フ。
 女ハ、泣キテ、答ヘテ、
 夫ノ事ヲ、告グ。夫ハ、
 其ノ言ヲ、信ジテ、
 其ノ事ヲ、行フ。

上ノ
 此ノ事ヲ、聞ク者、
 皆、其ノ事ヲ、信ズ。



夫ハ、此ノ時ニ至リテ、
 其ノ心ヲ、大ニ驚カセ、
 何レノ事ナリト、問フ。
 女ハ、泣キテ、答ヘテ、
 夫ノ事ヲ、告グ。夫ハ、
 其ノ言ヲ、信ジテ、
 其ノ事ヲ、行フ。

上ノ
 此ノ事ヲ、聞ク者、
 皆、其ノ事ヲ、信ズ。

ついでに...
まら...
さ...
か...
う...
さ...
も...

朝鮮牛肉丸 一色銅 百銅

鮮牛肉丸 一色銅 百銅
鮮牛肉丸 一色銅 百銅
鮮牛肉丸 一色銅 百銅



為永春水作一雄齋國輝画

浄書 其田 青洲

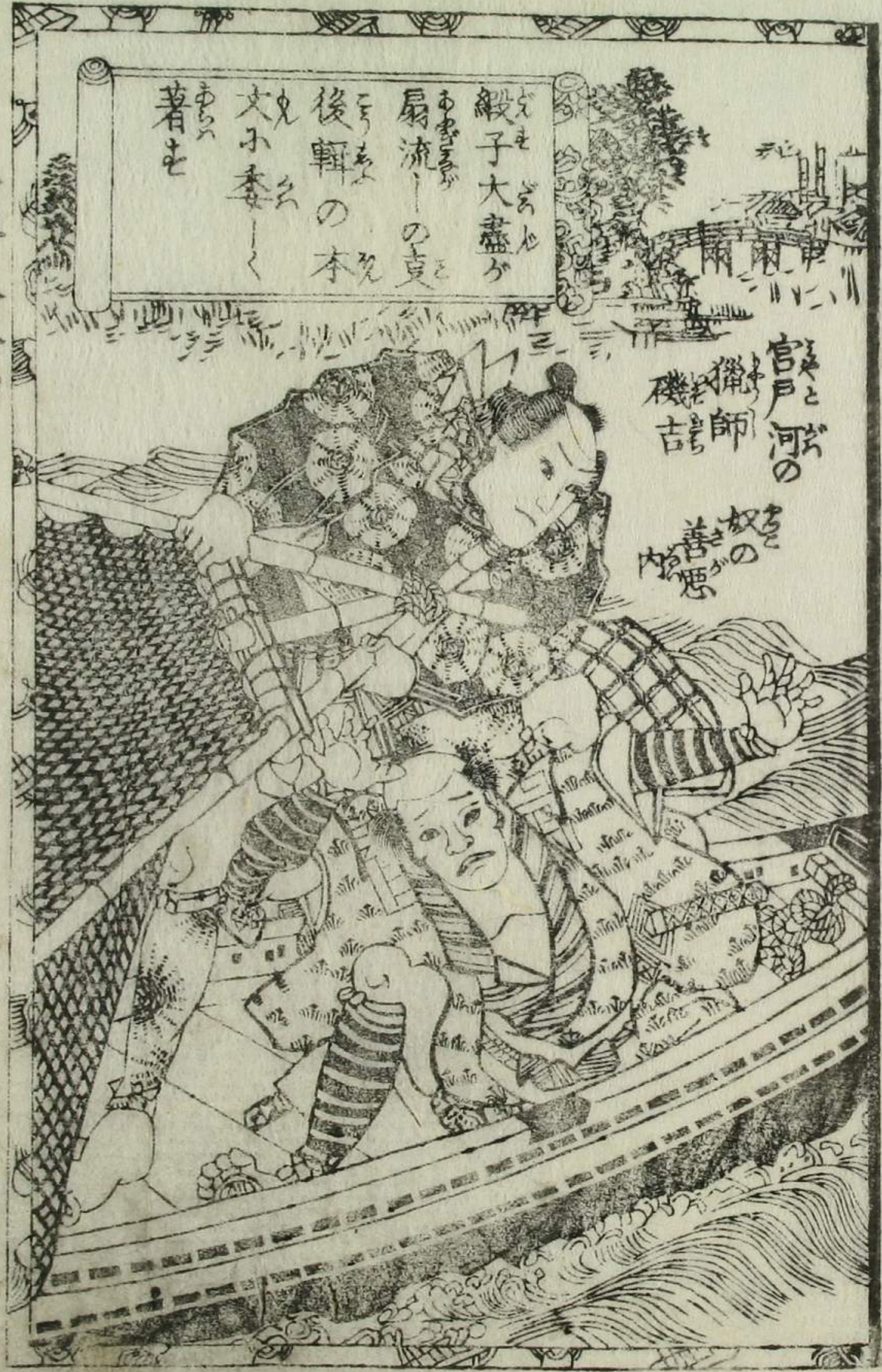
來年の夏に言へ鬼が笑を世の諺に言ふるは。這へ來々年の
の新販と。今稔の極月から草稿。迅いが勝と甘泉堂の需
紙得手小帆紙のびて。文左が初度の鎌倉下り。這軒中
みく編つと。四編の口画小見せまの。阿妙が人身御供の
段の預りさへ小ありね。夫等い總く六編まで。埒を明べた
腹稿あるふぞ。紀文かういふ言ふもさるる。續て其角一蝶等
か。滑稽洒落の傳ふも及ぶ。看宦多冊小倦多て。鬼も味
よを禮ふ來る。その春毎小召せむいね。

安政元甲寅歲晚冬稿
同三丙辰繪孟春賣市

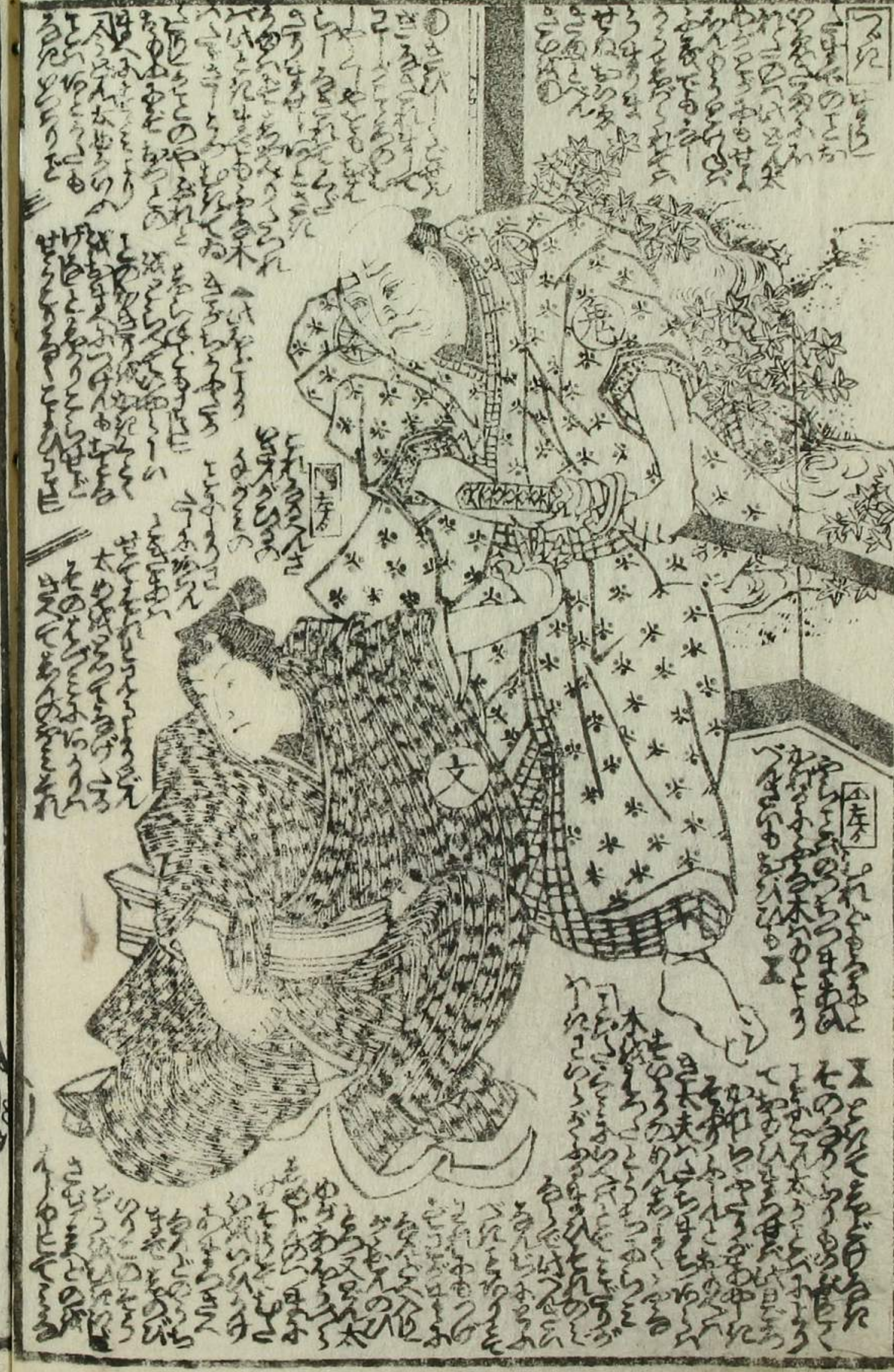
五 為永春水記

廿五編



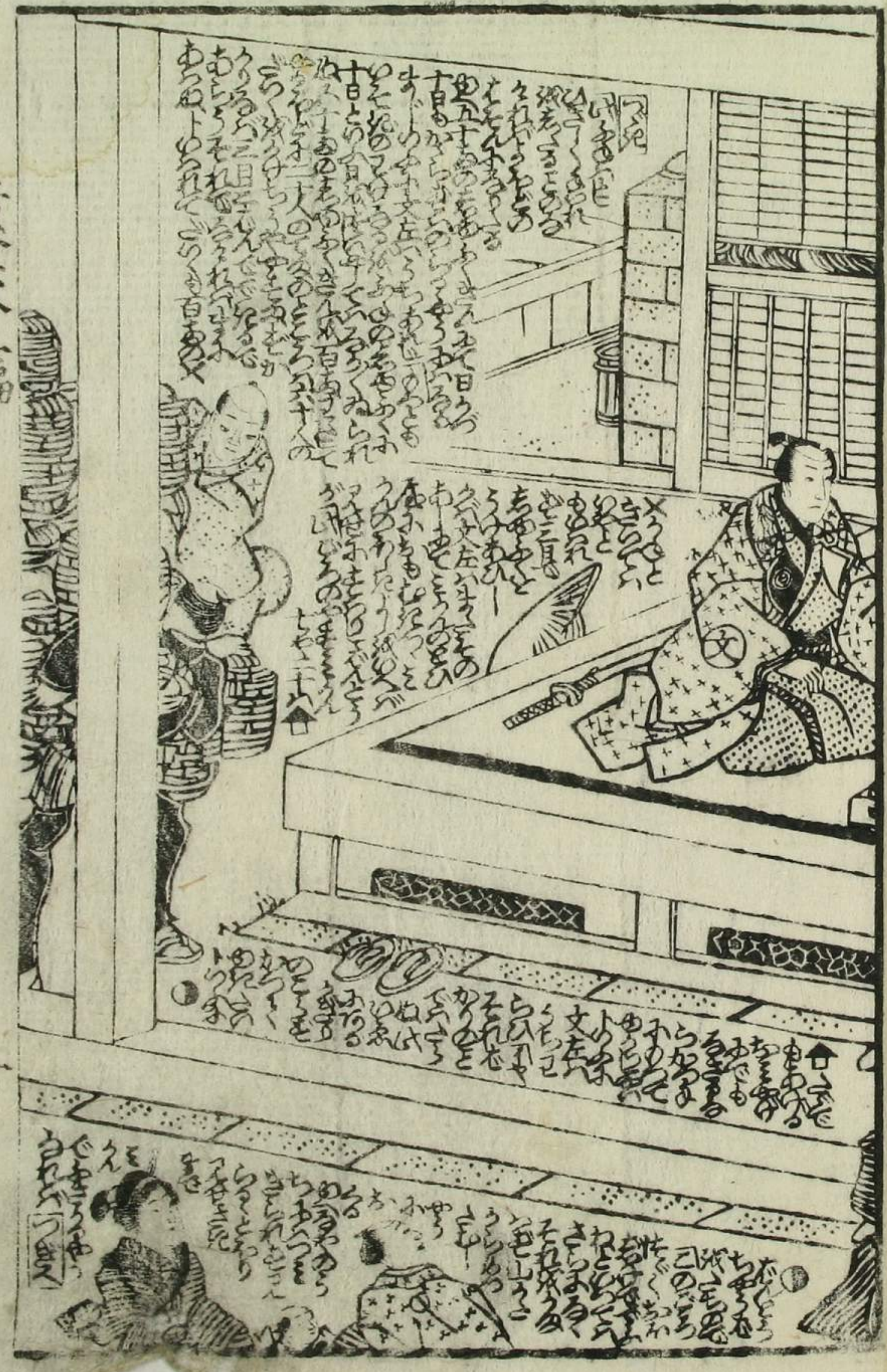








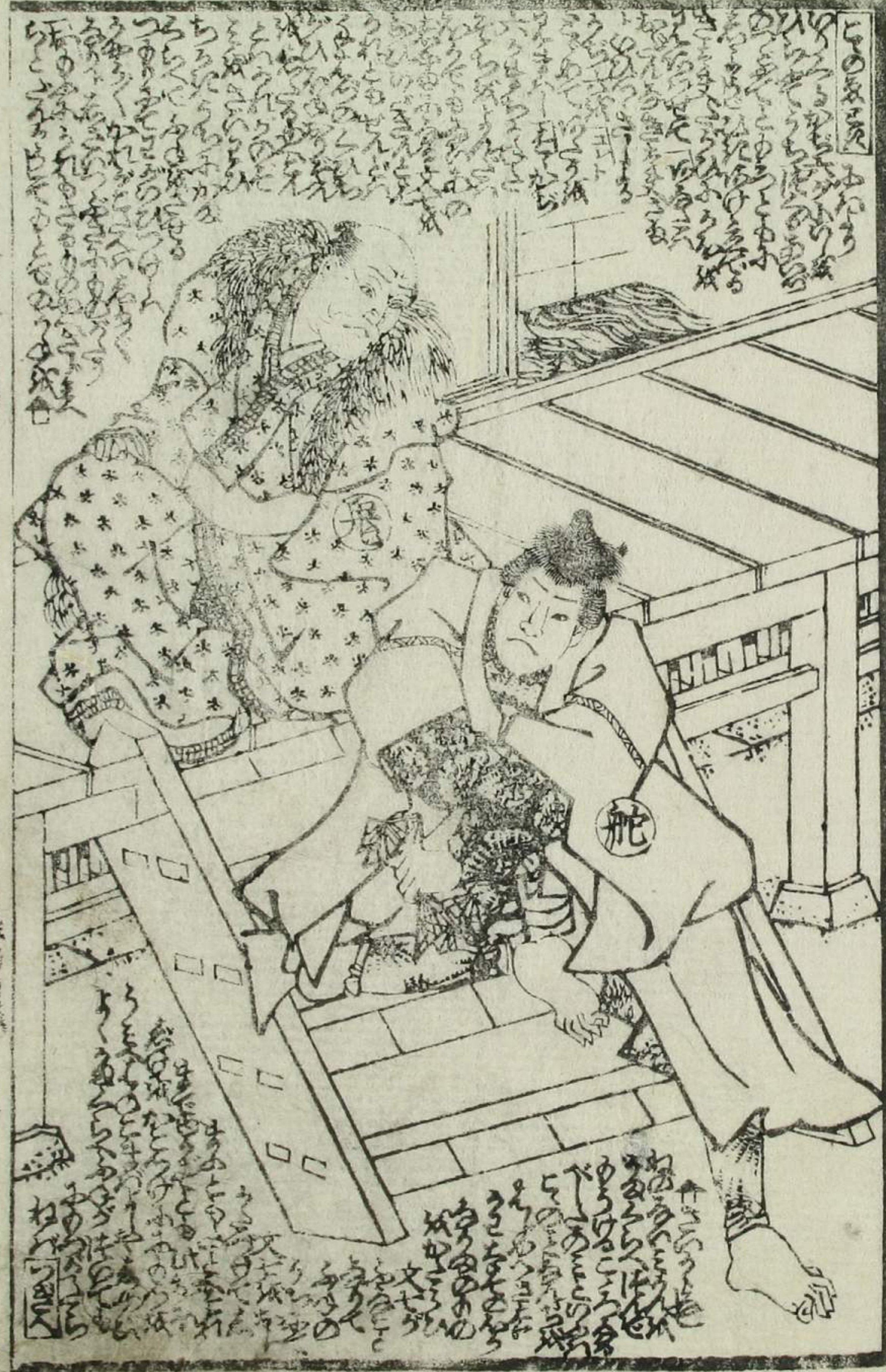




蜜柑 問屋 黄金屋 銀兵衛

大正八年八月

九



鳥永春水作 雄齋國光画

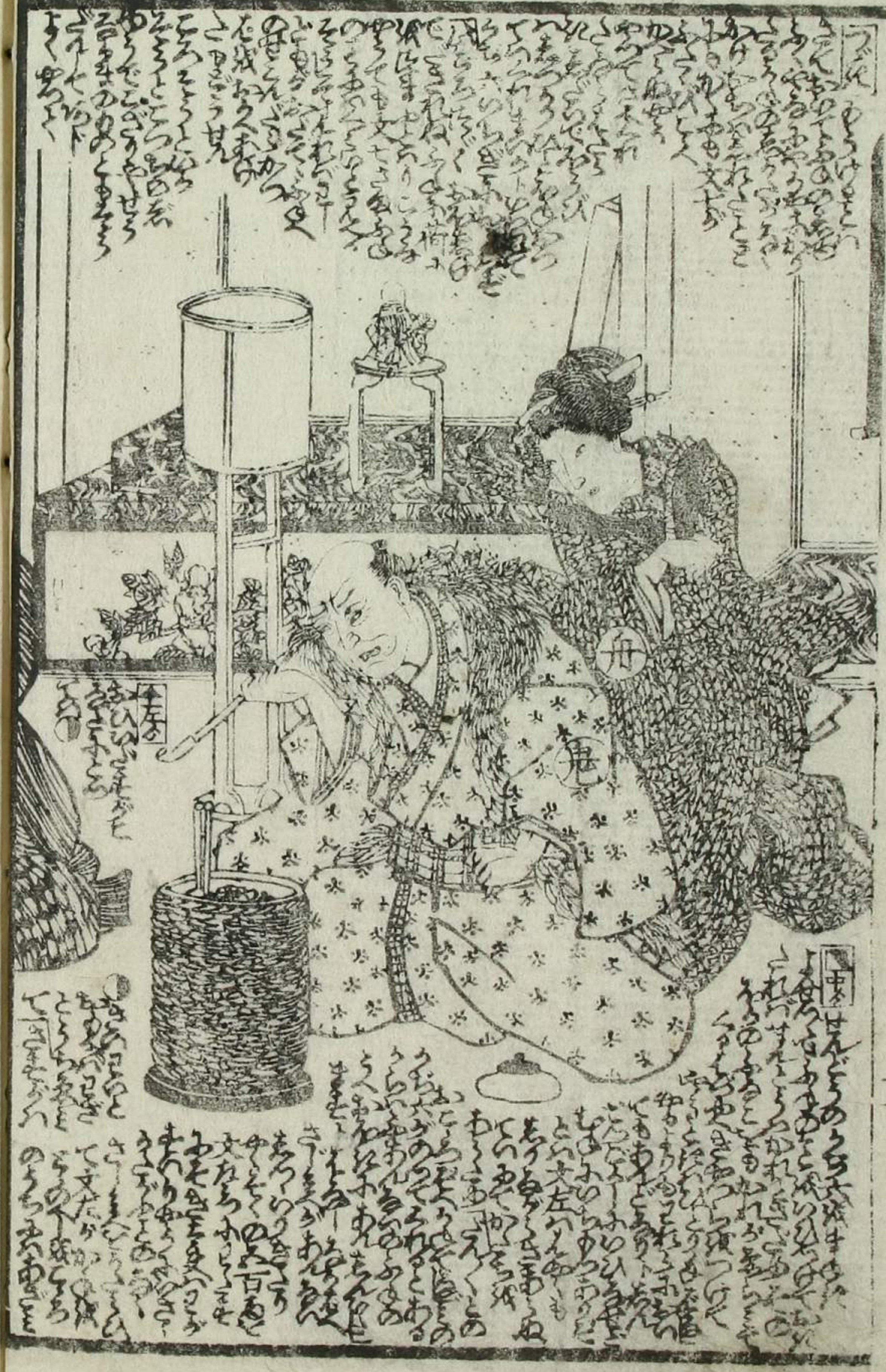
浄書
青洲

十頁全一ツ子幼



この世は...
あつた...
あつた...
あつた...

佐...
あつた...
あつた...
あつた...



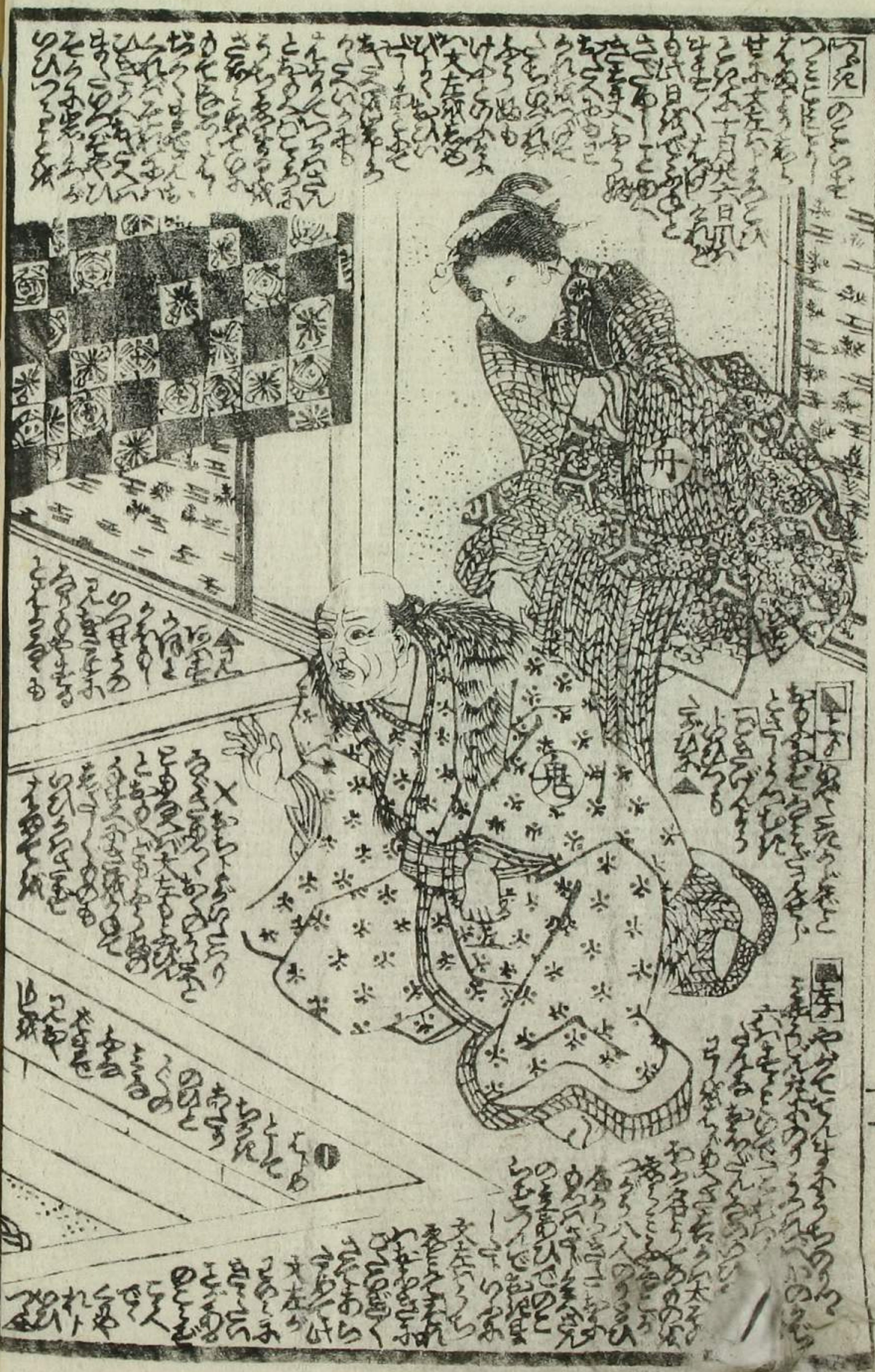
あつた...
あつた...
あつた...

あつた...
あつた...
あつた...

十

十

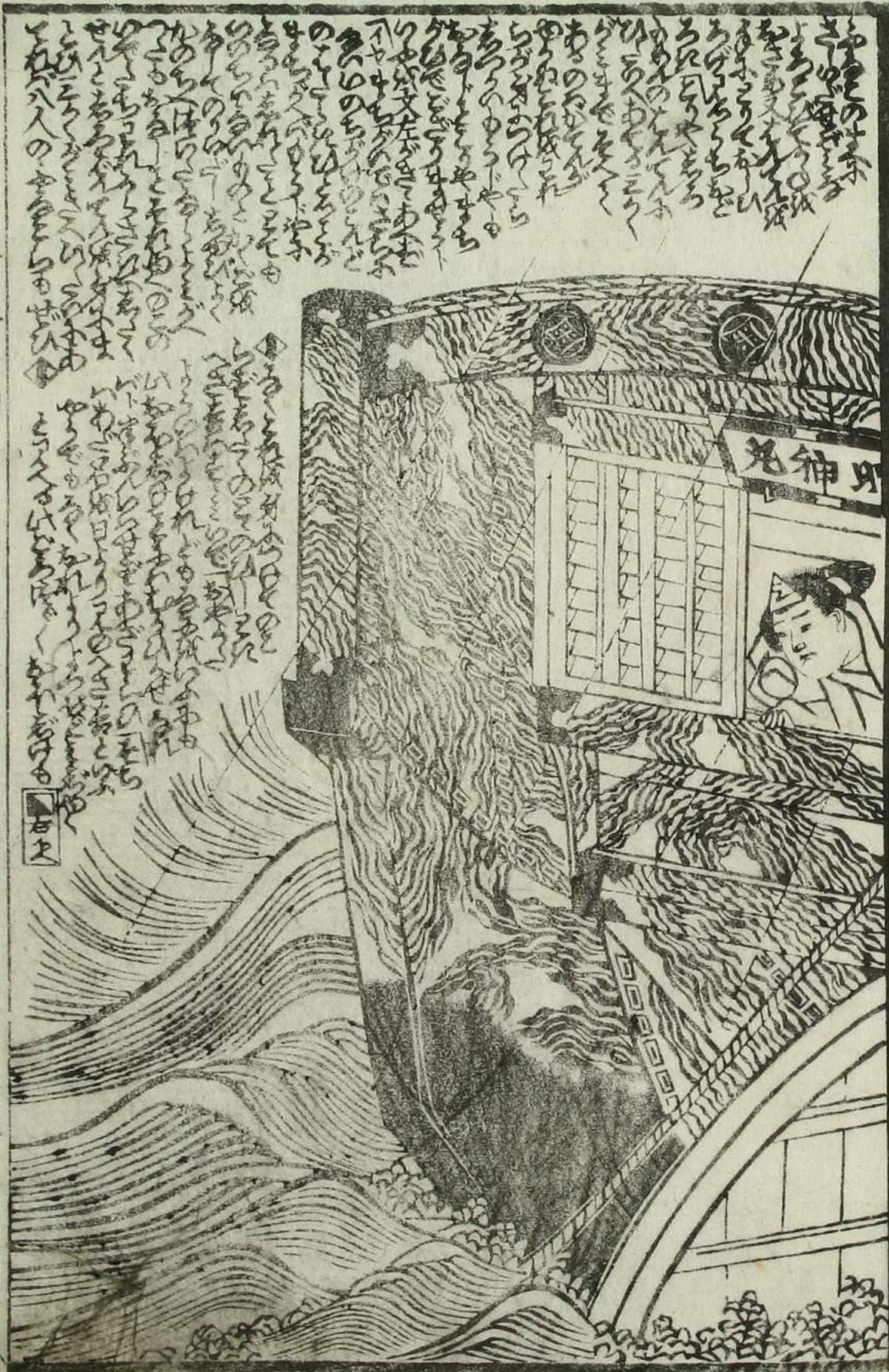
大正十一年



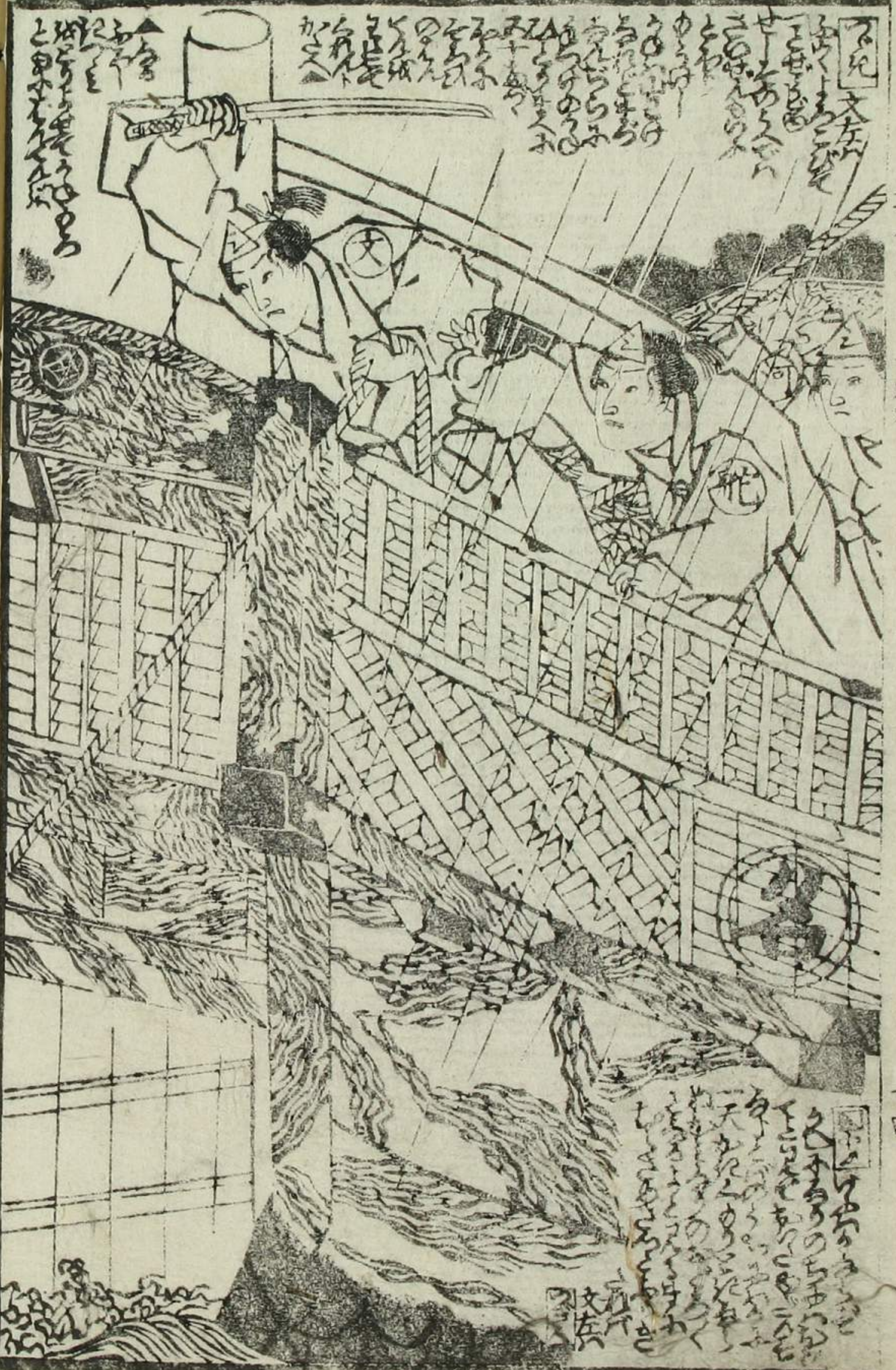
黄金の五郎

十一





百五



百四

百四



舟の形は長方形に似て、
 舟の幅は舟の長さの半ほどに
 舟の深さは舟の長さの四分の一ほどに
 舟の底は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の舷は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の櫓は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の帆は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の櫓は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の帆は舟の長さの四分の一ほどに

舟の形は長方形に似て、
 舟の幅は舟の長さの半ほどに
 舟の深さは舟の長さの四分の一ほどに
 舟の底は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の舷は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の櫓は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の帆は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の櫓は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の帆は舟の長さの四分の一ほどに



舟の形は長方形に似て、
 舟の幅は舟の長さの半ほどに
 舟の深さは舟の長さの四分の一ほどに
 舟の底は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の舷は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の櫓は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の帆は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の櫓は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の帆は舟の長さの四分の一ほどに

舟の形は長方形に似て、
 舟の幅は舟の長さの半ほどに
 舟の深さは舟の長さの四分の一ほどに
 舟の底は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の舷は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の櫓は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の帆は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の櫓は舟の長さの四分の一ほどに
 舟の帆は舟の長さの四分の一ほどに





山好屋... 飲端... 山好屋... 飲端... 山好屋... 飲端...



山好屋... 飲端... 山好屋... 飲端... 山好屋... 飲端...

山好屋... 飲端... 山好屋... 飲端... 山好屋... 飲端...

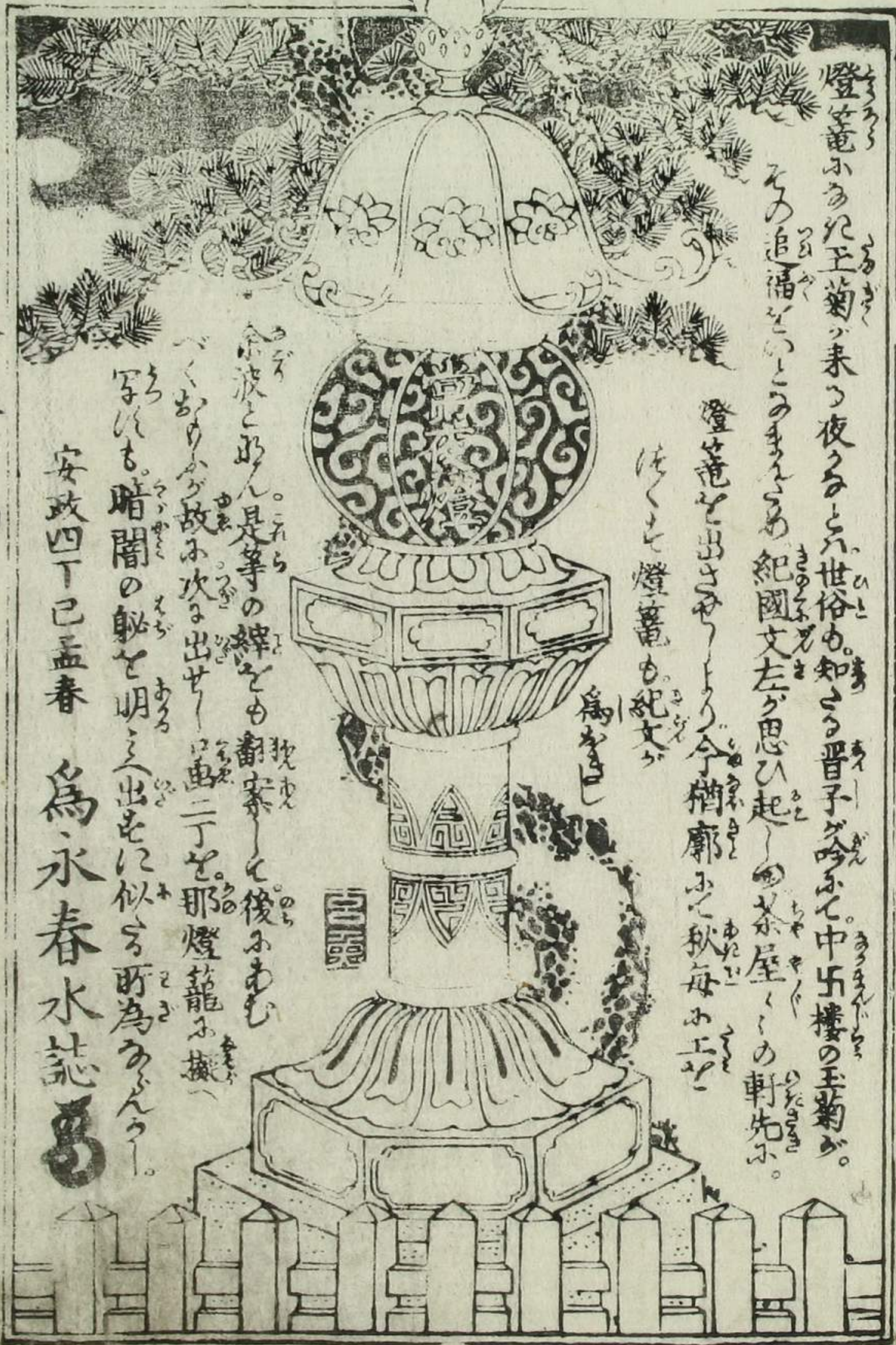


山好屋... 飲端... 山好屋... 飲端... 山好屋... 飲端...

山好屋... 飲端...

山好屋... 飲端...

山好屋... 飲端...



燈籠ふたは玉菊の末の夜ふと六世俗の知る晋子吟ふて中五樓の玉菊が。
 その追福のこのまゝの紀國文左が思ひ起の茶屋の軒先ふ。

燈籠を出さやうと今猶廓ふ秋毎ふ上ぞ。
 是くと燈籠も紀國文が。

余波とぬん是等の緯を由翻案して後ふわむ。
 写しも暗闇の軀を明く出さるに似る所為ふんう。
 安政四丁己孟春 為永春水誌

大正八年二月

為永春水作

此の作は、春水の筆で、
 文才の秀でて、
 筆致の流麗で、
 人物の描き出しが、
 実に生々しく、
 見る者の心を、
 捉へて置く。

朝 鮮牛肉丸 百銅
 下谷まじりや
 對する 漆崎氏製



雄齋國光画

大根やあらぬ
 大根やあらぬ
 大根やあらぬ

浄書 青洲

此の作は、國光の筆で、
 人物の描き出しが、
 実に生々しく、
 見る者の心を、
 捉へて置く。



青金小六繪



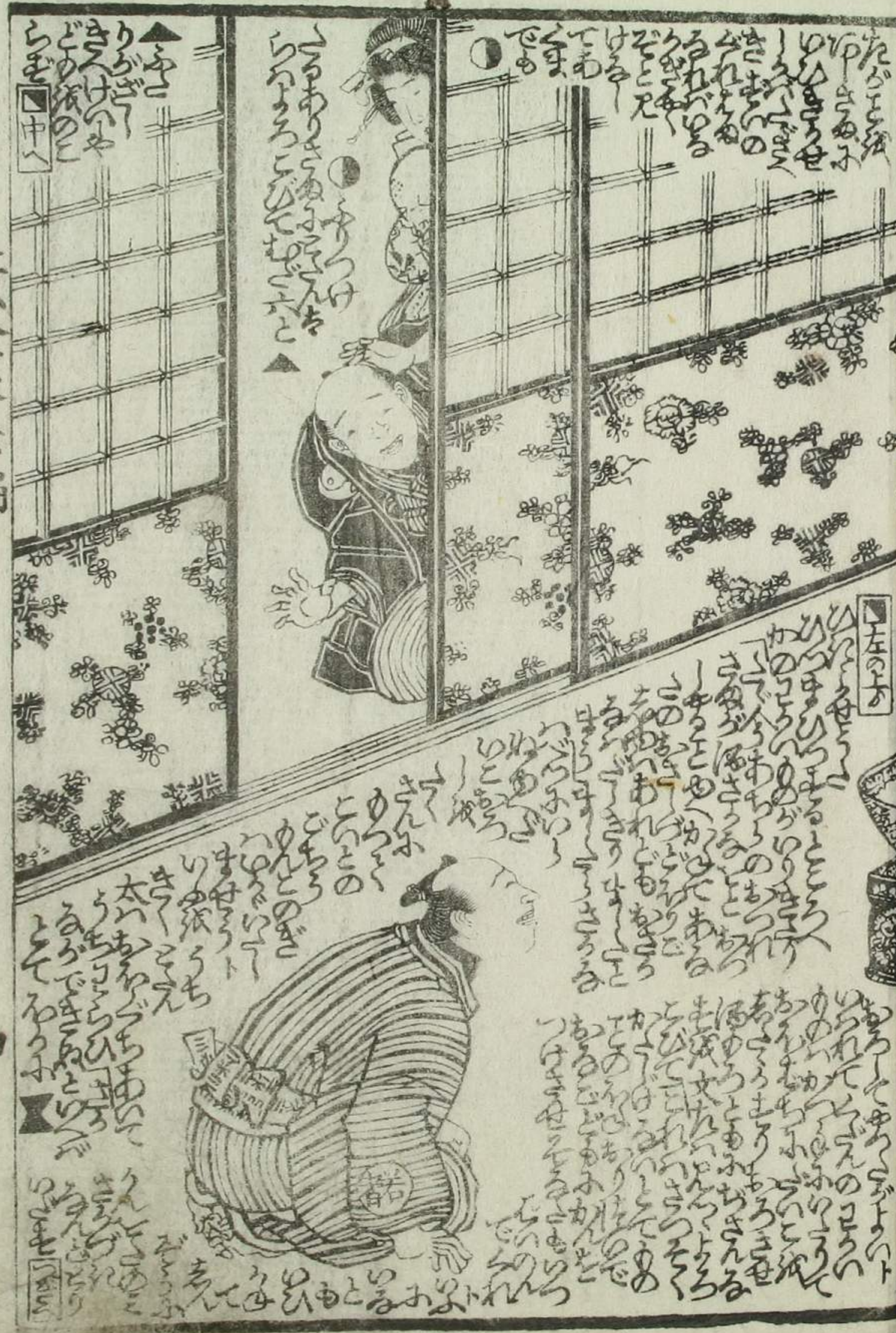
梅家の息女
深穂姫

非

晋子
其角



夕
日
の
光







の巻のついでに
ひさしのついでに
さくらのついでに
うしろのついでに
おのれついでに
いひついでに
ついでに

鳥居竹園

女のついでに
おのれのついでに
いひついでに
ついでに

ふりついでに
が女ついでに
このついでに
あやついでに
あやついでに
あやついでに

かのおついでに
あやついでに
あやついでに
あやついでに
あやついでに
あやついでに



鳥居竹園

ひさしのついでに
さくらのついでに
うしろのついでに
おのれついでに
いひついでに
ついでに

女のついでに
おのれのついでに
いひついでに
ついでに
あやついでに
あやついでに
あやついでに
あやついでに
あやついでに
あやついでに

つれづれと... 文左衛門のちび文左衛門... 文左衛門のちび文左衛門... 文左衛門のちび文左衛門...



文左衛門のちび文左衛門... 文左衛門のちび文左衛門... 文左衛門のちび文左衛門...

つれづれと... 文左衛門のちび文左衛門... 文左衛門のちび文左衛門...



文左衛門のちび文左衛門... 文左衛門のちび文左衛門... 文左衛門のちび文左衛門...

貴金...



この山に雲がはらけりて
 遠くまで見ゆる山並み
 谷間に水が流れて
 田舎の煙が立ち上る
 朝の光が照らす
 静かな山村の風景
 雲がはらけりて
 遠くまで見ゆる山並み
 谷間に水が流れて
 田舎の煙が立ち上る
 朝の光が照らす
 静かな山村の風景

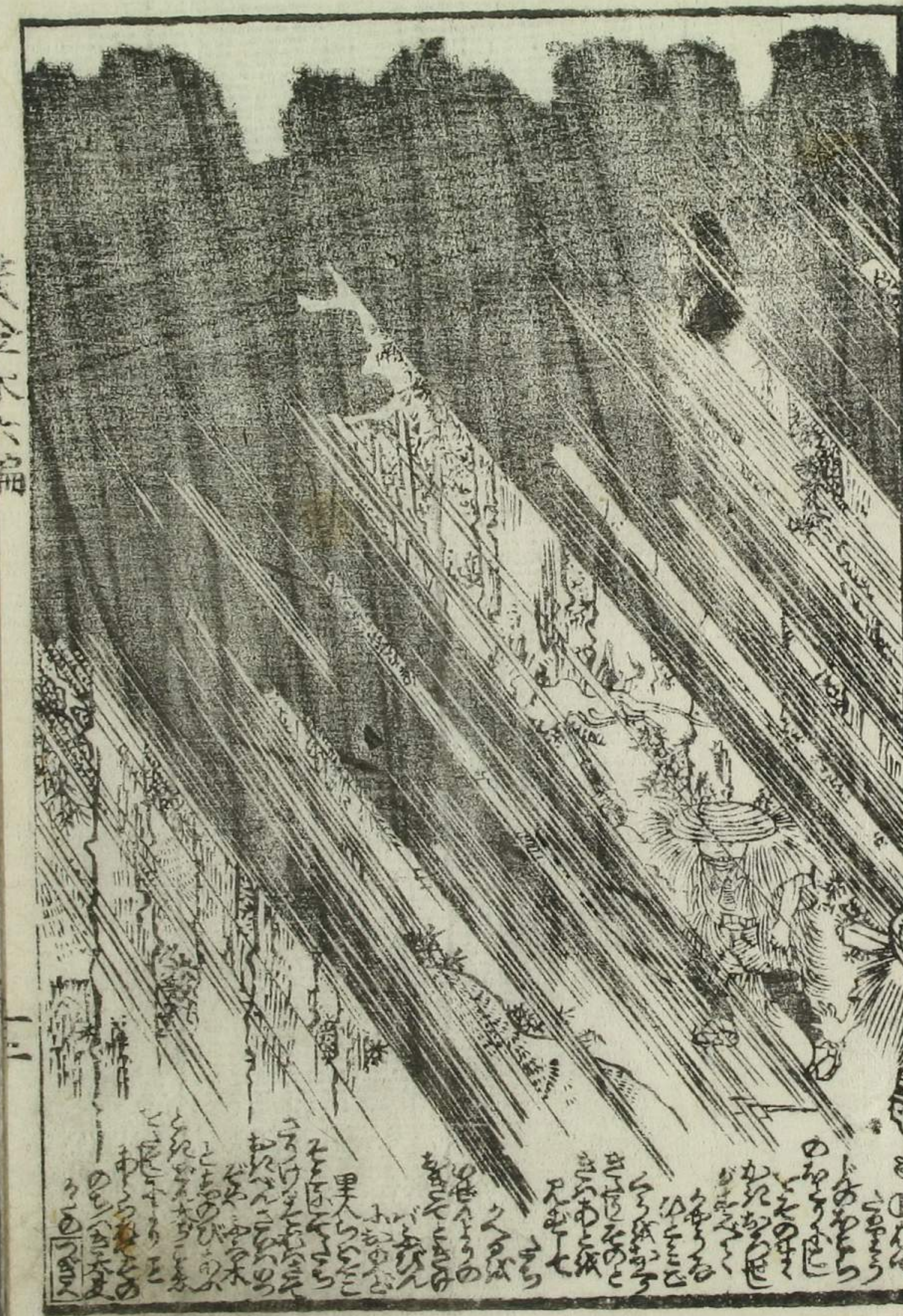


この山に雲がはらけりて
 遠くまで見ゆる山並み
 谷間に水が流れて
 田舎の煙が立ち上る
 朝の光が照らす
 静かな山村の風景
 雲がはらけりて
 遠くまで見ゆる山並み
 谷間に水が流れて
 田舎の煙が立ち上る
 朝の光が照らす
 静かな山村の風景



春水作 國貞画





此の山は... 甲斐の山...

山崎の山

一



此の山は... 甲斐の山...

青金才大船



此の如く
 人の世は
 夢の如く
 過ぎゆく
 事を知る
 人は
 少く
 有り
 也

①の如く
 人の世は
 夢の如く
 過ぎゆく
 事を知る
 人は
 少く
 有り
 也



①の如く
 人の世は
 夢の如く
 過ぎゆく
 事を知る
 人は
 少く
 有り
 也





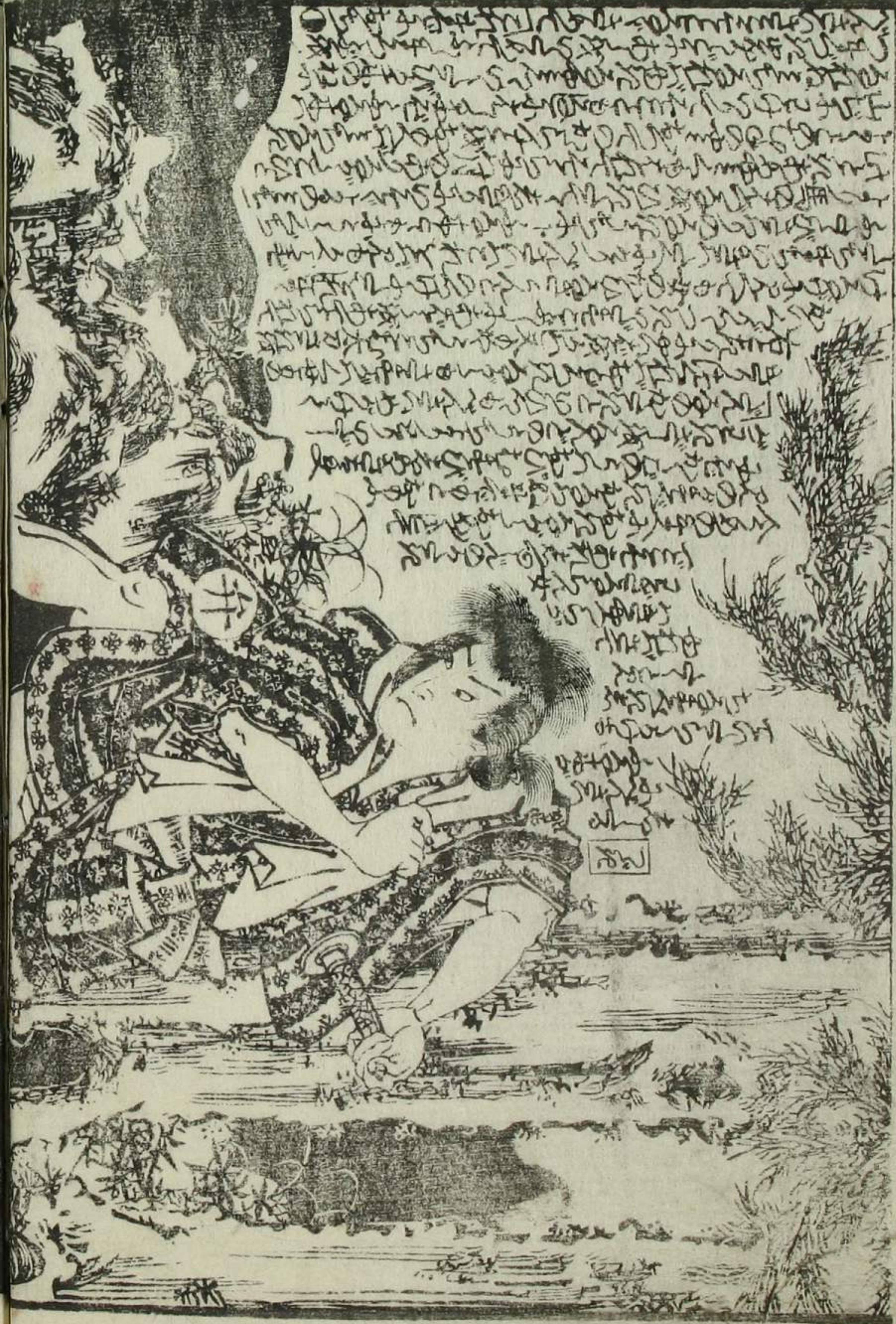
Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary related to the illustration above.



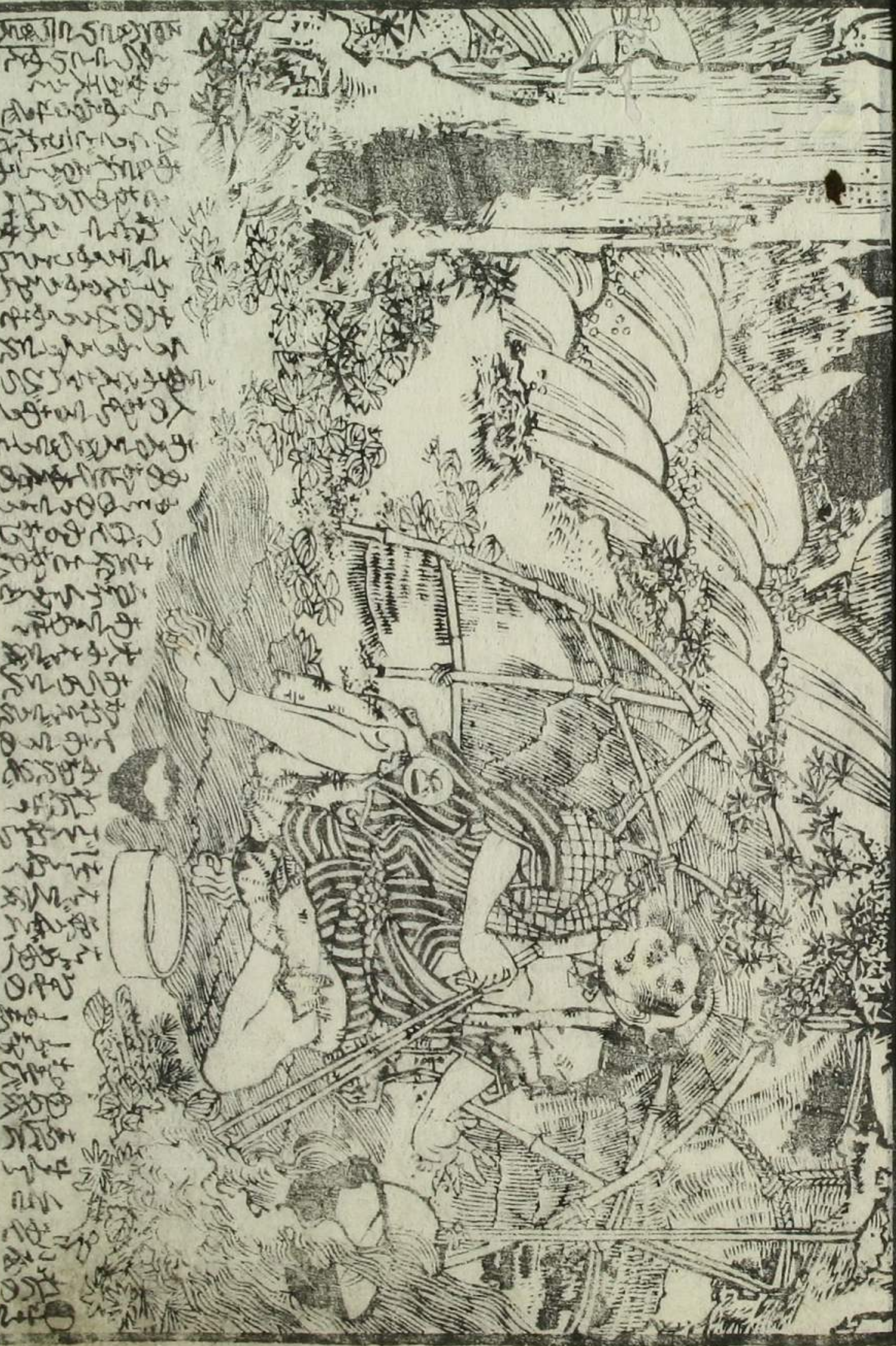
Vertical columns of handwritten Japanese text, continuing the narrative or commentary from the illustration above.



此山名曰...
 其水曰...
 其地曰...
 其物曰...
 其民曰...
 其俗曰...
 其風曰...
 其氣曰...
 其味曰...
 其色曰...
 其聲曰...
 其臭曰...
 其味曰...
 其色曰...
 其聲曰...
 其臭曰...



此山名曰...
 其水曰...
 其地曰...
 其物曰...
 其民曰...
 其俗曰...
 其風曰...
 其氣曰...
 其味曰...
 其色曰...
 其聲曰...
 其臭曰...
 其味曰...
 其色曰...
 其聲曰...
 其臭曰...





Vertical text on the left margin, likely a chapter or section title.

Top section of vertical Japanese text on the left page, positioned above the illustration.

Bottom section of vertical Japanese text on the left page, positioned below the illustration.



Top section of vertical Japanese text on the right page, positioned above the illustration.

Bottom section of vertical Japanese text on the right page, positioned below the illustration.

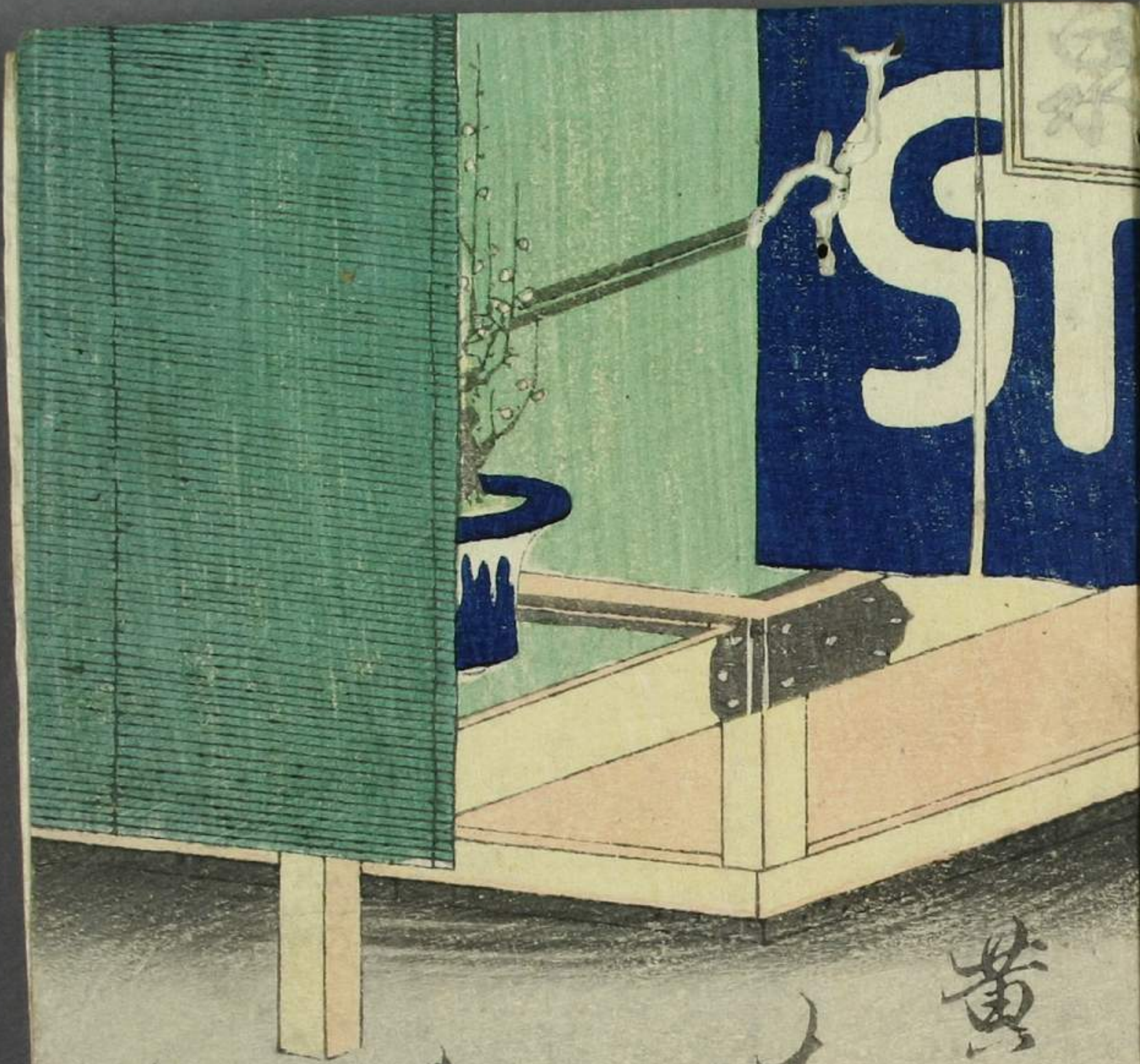
Vertical text on the right margin, likely a chapter or section title.



責入六六冊



責入六六冊



黄金水

六編

大盡盡

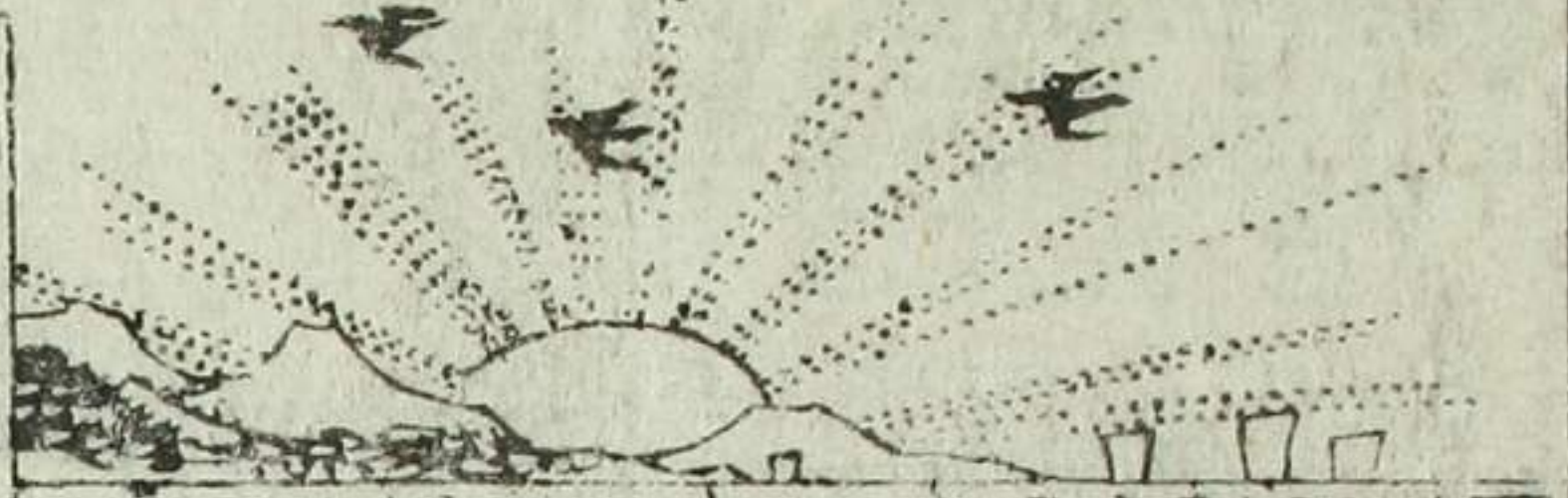
喜久化

國貞画

甘泉堂梓家一



牛丸 一包百孔
 身一公の成を...
 考せぬ...
 きたよ、の...
 罪ひ...
 漆崎氏製



為永春水作

一壽亦用國貞画

三集全一...
 二巻

Many small handwritten annotations or signatures surrounding the illustration of the two figures.

